

故松岡 浩元会長お別れ会



花祭壇に献花をされる皆さん

昨年の十二月二十六日に、十一月二十五日に逝去されたタニサケ創業者の松岡 浩元会長のお別れ会が、大垣市のフォーラムホテルで開催されました。
お別れ会は、午後一時から三時まで行われ、受付をしていただいた後、花祭壇に献花していただき、その後、松岡元会長を偲ぶ写真や本、愛用品などをご覧いただき、皆さんで軽食をとりながら、ご歓談いただきました。
参加者は、北は東北から南は九州まで約二百名の方に来ていただきました。本当にありがとうございました。

松岡 浩元会長を偲ぶ写真や愛用品を見て、ご歓談をされる皆さん



鍵山秀三郎さんに学ぶ

成果を挙げるためには

成果を挙げる人にはムダがない。ムダをなくすためにはできるだけ少し前を知り、気づくことです。

『一日一話』鍵山秀三郎著より



ネズミ退治には
コロソブロック



ゴキブリ追放宣言

DCMホールディングス(株)

ダイキ(株)の創業者

大亀孝裕様に学ぶ

生きる道

職業に貴賤^{きせん}なし。例えどんな仕事でも、プロ意識と自尊心を持ち、人の役に立てるように努力を怠りさえしなければ、それは立派な職業だと胸を張っている。

本当に自分のやりたいことなのか。自分がやるべきことなのか。自分に合っているのか。心の底から好きで、真剣に打ち込むことができるのか。しっかりと見極めたいものである。

一人の人間が一生の間にできる仕事の数と種類は、ごく限られている。自分には向かないと思いつながら、がまんをして、時間が過ぎるのを待つように働くのはやめたほうがいい。何十年の間、やりがいを感じて続けられる仕事を、真剣に探し求めてほしい。

私は高校を卒業した後、愛媛県庁に入庁し、毎日一所懸命に働いた。ところが数年後に人事課に配属され、「これは自分の身に余る仕事だ」と思うようになった。人様の人生

を左右する資格は、この私にはない。そう考えて退職し、事業化の道を選んだ。

商売については素人だったが、性には合っていたようで、以後、現在に至るまで、大きなやりがいを感じ、全力で事業に打ち込むことができていた。

どんな仕事でもいい。自分が生きる道としてふさわしい職業を、とことん考え抜いて見つけてほしい。

『素人じゃけんできること(ダイキ創業者・大亀孝裕のフィロソフィー)』

PHP研究所発行より



亀の石像にて記念撮影。大亀孝裕さん(中央右)とタニサケの社員皆さん(平成26年撮影)

上神田梅雄さん(新宿調理師専門学校・元校長)に学ぶ

『調理師という人生を目指す君に』 上神田梅雄著

まずは百日修業、そして千日修業を成就せよ

心離さず
祈り離さず

調理師を目指す君たちに

社会人になってからも親は、健康であるように、無事に暮らせているようにと、遠く離れて暮らしていても、祈る思いで我が子の行く末を見つめ続けることとなります。

実は、こうした親の思いは、我々教師の思いと通じるものがあります。在学中は、調理師として大切な基礎力を培う時なので、「目を離さず」、見逃さない、見放さないという導きが必要です。

卒業したら「心離さず」、卒業すると調理師免許は取得できますが、一人前の調理師への本格的修業(学び)は、働き始めるここからがスタートであり「心離さず」の時です。現場の厨房で起こることのすべてが、自分自身で越えなければならぬ障害物競技の連続です。心構えが満足にできていない者には、社会人レベルが要求される挨拶・返事に戸惑い、できて当然の朝起きに苦しむことでしょう。